

2017年度  
第2号1版  
2017/3/21

## 麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会 実行委員会ニュース

〒107-0052東京都港区赤坂2-2-21  
東京合同法律事務所気付  
TEL:03-3586-3651 FAX:03-3505-3976  
Email: azabu@tkm.att.ne.jp  
URL:http://home.att.ne.jp/sigma/azabu/

戦争法廃止！ 共謀罪反対！ 辺野古・高江の新基地建設反対！ 麻布米軍ヘリ基地を撤去させよう！

# 撤去運動50周年 4・18撤去集会を成功させよう！

皆さん！

安倍内閣は米国追従の姿勢もあらわに沖縄を含む南西諸島での軍事力強化をはかりつつ国民を弾圧する「共謀罪」制定を狙っています。

しかし安倍政権や右翼勢力が掲げる「美しい日本」の欺瞞性と危険さは、森友学園問題をきっかけに今すべての国民の目に暴かれつつあります。私たちはこのような策謀を許すわけには行きません。

このような情勢のもと、私たちの麻布米軍ヘリ基地撤去運動は、50周年を迎えました。

来る4月18日の撤去集会を多数の結集で成功させて、平和と民主主義を守る国民的闘いに首都のど真ん中からも応えようではありませんか。

共謀罪を阻止し、平和憲法を守りましょう！そして六本木から、沖縄から、日本中から米軍基地を追い出しましょう！

詳細は集会案内チラシをご覧ください。



## 辺野古に新基地は要らない！！ 連帯・支援に行きました (2/11~13)

去る2月11~13日、実行委員会有志4名で、辺野古沖への米軍新基地に反対する地元・沖縄の皆さんへの支援・連帯に行ってきました。

11日午後はずまず新基地建設反対・名護共同センターを訪問、最新の状況について話を伺いました。

夕刻は今年の4・18集会に来てくれたヘリ基地反対協の抗議船「平和丸」船長の相馬由里子さんらと再会、夜遅くまで意気高く交流しました。

12日は辺野古浜の団結小屋や高江のヘリパッド建設抗議テントを訪問し、支援カンパを届けて激励・交流しました。また、共同センターのご好意で手配してくれた船に乗り、辺野古沖の貴重な美しい珊瑚礁や建設現場を海上から視察しました。

13日は早朝から海上抗議カヌー船団出発ミーティングで連帯挨拶。その後キャンプシュロブ・ゲート前に移動し抗議の座り込み行動

に参加しましたが、3回にわたって機動隊に強制排除され、悔しいことにこの日もコンクリートブロックの投入工事が強行されました。

しかし地元の人たちはへこたれず明るく元気に運動を続けています。支援に行った私たちの方が元気をもらった思いでした。(I)



ゲート前座り込みで連帯挨拶する川崎実行委員長

## 港区長らが東京都や防衛省にヘリ基地撤去の要請(2/8)

2月8日(水)、港区長・区議会議長は各会派代表と共に麻布ヘリ基地撤去要請を行いました

【本日(8日)、武井 雅昭(たけいまさあき) 港区長と、うかい雅彦(うかいまさひこ) 港区議会議長ほか港区議会各会派の代表議員は、防衛省(新宿区市谷本村町5丁目)並びに東京都庁(新宿区西新宿2丁目)を訪れ、「米軍ヘリポート基地に関する要請書」を手渡しました。

港区には、23区で唯一、米軍基地『赤坂プレスセンター(港区六本木7丁目)』があります。このため、港区民とりわけ近隣住民は、ヘリポート基地の使用による騒音に悩まされ、事故発生の不安を常に抱えています。これまで、港区は港区議会

とともに、関係機関に対して、区民の安全で安心できる生活を守るため、当該ヘリポート基地に関する要請行動を継続して実施してきました。

今回、港区と港区議会は、防衛大臣に対しては米軍ヘリによる事故への不安、騒音等の状況や早朝夜間の飛行中止を訴えるとともに基地の早期返還を、都知事に対しては、都が防災訓練や島嶼からの救急搬送ヘリポートとして使用しているところから、その使用が基地の恒久使用につながらないよう早期返還に向けた国への協力を要請しました。】(以上、港区公式ホームページより転載)

### 【現地調査報告】 六本木の米軍基地?について

2月に現地調査をされたYさんがお仲間へ送った報告を、ご本人の承諾を得てご紹介いたします

先日2月4日(土)の昼頃、六本木駅に近くにある学術会議の建物の前にいたら、背後にある小高い青山公園の方から爆音が聞こえ、やがて2機のヘリコプターが飛び立って青山墓地の方へ飛んでいきました。これが2回繰り返されました。学術会議のある位置は、隣が国立新美術館でその隣は政策研究大学院大学、公園の反対側には六本木ヒルズが見える場所ですが、この公園に米軍のヘリポートがある聞いて驚きました。

このときは、ちょうど学術会議前で「軍学共同研究」に反対するデモをやっていた(学術会議での公開討論会については、ニュースになりました)のですが、参加者の中に、国立新美術館ができる以前その地にあった東大生産技術研究所で勤務していた板倉さんという方がいて、このヘリポートの経緯についての詳しい説明を聞くことができました。

それによると、このあたりはもともと日本陸軍の敷地だったところで、敗戦後米軍が使用、講和後に返還される予定だったものが、米軍側が一部をヘリポートとして居座り今に至るといいます。ヘリポートのそばには、「星条旗新聞社」のビルや宿舎があり、軍の施設そのものではないのですが、このヘリポートを使って、アメリカの高官をはじめ関係者が自由に出入りしています。さきほど一度飛び立ったヘリがすぐ戻ってきたのは、この日来日して首相や防衛大臣と面談した米国防長官の家族など同行者ための遊覧飛行あたりではないかとの話でした。ちなみにニュースでは国防長官が直接飛来したのは横田基地ですが、アメリカにとって都心のヘリポートはヘリコプターをタクシー代わりに使えるので手放せないのだらうということです。ウェブで調べると、このヘリポートは近接する赤坂の米大使館なども使

用しているようです。

さらに、上記のビルには諜報機関の事務所もあるとのこと、ここから入出国するアメリカ人が何人いるかさえ日本は把握できないそうです。講和後の日本独立後、「日米合同委員会」が作られてアメリカの日本における便宜を図る機関として機能しており、つまりはアメリカによる日本占領の延長という性格が感じられます。



とにかく、交通頻繁な六本木のど真ん中にアメリカのヘリコプターが不定期に飛来しているというのに驚きました。板倉さんが研究をしていたころは、研究所の真上を飛んだりして、爆音と振動で仕事に支障を来していたそうです。

しかも、日本側からの要請にもかかわらず、何度かの返還の約束を反故にしており、今年は板倉さんたちが返還運動を始めて50年目になるそうです。これで日本の主権が守られているのかと心配になってしまいました。

(Y)



六本木に米軍基地は要らない! 麻布ヘリ基地告発DVD

**NO BASE in ROPPONGI Part2**

予価¥3000  
予約受付中